

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101106		
法人名	医療法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモス長野		
所在地	長野県長野市小島田町字北村沖376番地2 (電話) 026-285-5266		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】 (平成20年 9月21日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤10人, 非常勤 4人, 常勤換算12人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要(平成20年 9月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	0	女性	18 名
要介護 1	5	要介護 2	8		
要介護 3	3	要介護 4	2		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・クリニックコスモス長野 ・山岸歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには、住宅・田畑・果樹園・企業が多く点在している。信州ならではの山々も一望でき春の桜・田植え、秋の紅葉・刈入れなど体で季節を感じることが出来る。老健施設、クリニックが併設しているので入居者・家族には健康面での安心感がある。南北に走る公道はあるが、近隣の住民は敷地内の私道を自転車に乗ったり徒歩で往来している。通学や散歩でホームの前を横切る近所の方々と交流する機会が多い。職員一人ひとりがかもし自分が利用者だったらと相手の立場になり生活を支援している。入居者の優しい心遣いを感謝したり、職員が入居者に手を差し伸べたり、入居者と職員がお互いを必要とする関係作りが出来上がっている。入居者の方々の穏やかな表情から、安心して生活をしていることが強く感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 専門職の方々の意見を取り入れてケアプランを作成している。本人の望む生活・暮らしに近づけるためにホーム独自の「個別援助計画書」を作成している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニットごとの取り組みの方法は異なっているが、職員が関わりを持ち行われた。自己評価することで気づき・反省点など考えることが出来た。今回の評価結果も職員会議・運営推進会議で公表していく予定である。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議発足当初より2ヶ月に一回の割合で開催してきた。区長・民生委員・市職員・家族会代表・近所の住民参加のもとホームの活動報告に始まり、行事への参加依頼など多くの話し合いが行われている。今後は課題を決め、重点的に話し合いを進めて行くことも良いのではないかと思われる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会があり、年4回位開かれている。家族と職員とが何でも言い合える関係作りを心がけている。「満足度調査」をご家族にお願いしたり入居者の意見を聞いたりしている。要望・苦情等を職員会で話し合い、ご家族へ回答を行っている。入居者の情報が家族へスムーズに伝達されている。家族より入居者が明るくなったと感謝の言葉を頂いている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の回覧板を利用し広報につとめ「夏祭り」を行っている。毎年多くの住民やボランティアに参加していただき、楽しいお祭りになっている。地元地域の行事への招待もあり入居者が参加している。今後も現状を維持し、更に地域との関わりを密にさせていただくことを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念があり、それを更に具体化するためのスローガンも作られている。ホーム便りに理念を掲載したり、ホーム内に理念が掲げられており職員が常に意識する環境づくりがされている。	○	グループホームが地域密着型サービスとしての括りとなり職員で「地域密着型」にあわせた理念作りが提案されている。「ゆっくり楽しく・・・」を基本にして作成したいという意向である。早い時期に新理念を作成されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフ会議の話し合いで伝達している。毎日のケース記録記入時にも職員間で話している。職員も自分なりの言葉で理解し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の生活の中で、農作業帰りの近隣の方がお茶飲みなどに立ち寄っている。ホーム開設当時より毎年行っている「夏祭り」には多くの方が参加をしている。小学校の運動会への招待もあり交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとの作成方法の違いはあるが、職員が少しずつ関わりを持ち自己評価を行った。評価することで反省と気づきが出来た。今後はもっと職員が評価に関わることが出来るようにしていきたいとの意向である。		

グループホームコスモス長野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われている。入居者が地域の方々との関わりを持てるように地区の「お茶のみサロン」への参加を区長へ依頼している。今後は課題を決めて会議で話し合い、協力をお願いしていく予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険課へ相談ごとなどの電話をしている。月1回あんしん相談員の派遣がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「グループホーム便り」・「生活記録」を毎月家族へ送っている。家族は生活が分かり楽しみにしていると言う。金銭の預かりもホームに訪問された時に収支報告している。ホーム便りは記事や写真が多く、異動などの記事を見落してしまうこともあるので工夫をしていきたいと話している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と入居者、別々に「満足度調査」をしている。家族会も年4回行われている。家族の要望・苦情など意見が出やすい環境作りが出来る。要望等については職員全員の会議で話し合い、ご家族に回答をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、グループホームに関しては最小限にするよう配慮されている。異動のあった職員の法人内施設へ面会に行くなどして、入居者が不安のないように心がけている。		

グループホームコスモス長野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に段階に応じて参加している。研修後はレポートを作成し会議で発表している。モラルやマナーを自己評価し、ホーム長がそれを評価する制度も取り入れている。年に1回法人代表と個人面談が行われている。仕事のことや悩みなど何でも発言出来る場となっている。ストレス解消にも役立っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価を受ける目的として発足した「善光寺平グループホームネットワーク」に加入している。現在はまだ相互評価までされていない。今後はお互いのホームの交流を図りたいと希望している。	○	現場職員の参加も積極的にお願いしたい。他のホームと「課題」を持ち交流することで職員自身が気付きを得、自らのホームを振り返ることが出来るものと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のデイサービス・老健よりの入居者もいる。関連施設よりの入居者は、ホームのレクリエーションなどに何回も参加され、入居していただいている。直接入居される方には家族と一緒にホームを訪問していただき、お茶のみなどに加わっていただきながら雰囲気を感じてもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理をあまり得意としない職員がいるが、入居者の方に料理法などを教えていただき助かっている。「おばあちゃんの知恵袋」のようなことも沢山教えていただいている。職員に思いやりの言葉をかけていただくこともあり、職員も必ず入居者に感謝の気持ちを伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「個別援助計画書」を作成することで入居者をより深く知ることが出来ている。個々の思いを集団でいるときには話しづらい方も1対1でお茶など飲みながら話すことで気持ちを聞くようにしている。また本人の表情からも読み取るように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のケアプラン会議で話し合いを行い検討している。入居者や家族の希望を聞く話し合いも行われている。専門職の意見も聞きながら、入居者が快適な生活を送れるようなプラン作りに心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン会議で3ヶ月に1回の割合で見直しを行っている。状態変化がある場合はその都度行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	原則として病院への付き添いは家族にしてもらっているが、都合がつかない場合には職員が付き添いを行っている。日用品の買い物を代行することもある。		

グループホームコスモス長野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に法人のクリニックがあり家族よりの依頼で変更している。毎月2回受診している。歯科医より口腔ケアのアドバイスもいただいている。ケアプランに医師の意見を取り入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いを設け決めている。訪問看護も取り入れ、医師の協力により24時間医療を受けられる体制が整備されている。現在契約時の書類の見直し作業を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関して職員は十分理解している。毎日の生活での声掛けなどは落ち着いた静かな対応がとられている。入居者の部屋に入る時は必ずノックか声掛けをするように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の新聞の読み聞かせなどを通じて急に見学に出向することもある。また天気の良い日にはお弁当を持ち出かけ楽しむこともある。		

グループホームコスモス長野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に入居者の希望を取り入れ、献立を作成している。準備の段階やあとかたづけ、食事中のお茶を入れなど出来る範囲で作業にかかわりを持っていただいている。信州ならではの毎年の冬支度として、野沢菜漬けのお菜洗い作業を入居者の方々と共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	広いお風呂に気のあった方と一緒に入浴されることもある。車椅子の方には職員が3名で介助に当たり、入浴を楽しんでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアによる華道教室や茶道教室が開かれていて入居者が参加している。切り絵の上手な入居者がいて職員や入居者が教えてもらい、作品がホームの中に飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は散歩をしている。ホームの敷地内だけでなく近くの公園まで出かけ、近所の人々とも交流をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は理解している。入居者によっては自分で部屋の鍵をかけて休まれる方がいる。訪問調査時は秋の過ごしやすい天気だったので玄関は開け放されていた。		

グループホームコスモス長野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て訓練を年2回行っている。実地訓練の他に通報訓練も行っている。事務室には消防署への直通の電話が備え付けられている。訓練には入居者の方々にも参加していただいている。	○	入居者の安全確保のため、新任職員や訓練に参加できなかった職員への指導を徹底していただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ユニットごとに職員の手で献立が作成されている。「食事の記録」が作成されていて入居者の摂取状況が記されている。食事時はお互い声掛けをしながら水分の補給をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ボランティアによる華道教室の作品が居室やリビングに飾られていて和やかな雰囲気を作り上げている。リビングには、畳の部屋も設けられていて、各々好きな場所で過ごせるようになっている。自然の光と空気が心地よい状態で取り込まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビなどの持ち込みがされている。居室には収納場所があり、整理整頓がされていて生活しやすい場となっている。		

※  は、重点項目。